

第 9 章 対象事業に係る環境影響の総合的な評価

第 9 章 対象事業に係る環境影響の総合的な評価

9.1 総合評価

平成 26 年度事後調査報告書においては、第 6 章、第 7 章で示した事後調査結果と環境影響評価結果との比較検討の結果は、主に以下のとおりである。

水質で夏季に St. 10 で SS, T-N, T-P, クロロフィル a、濁度が過年度調査及び他の地点と比べ高い値であったことを除き、水質や底質に大きな変化はみられず、日々の濁り監視でも周辺海域への濁りの拡散がみられていない。

また、海域生物の調査結果においても、植物プランクトンの春季の減少、夏季の増加や海草藻場の台風・葉枯れによる減少が確認されたものの、動物プランクトン、魚卵・稚仔魚、底生動物（マクロベントス、メガロベントス）、サンゴ類については、概ね工事前の変動範囲内であり、生息・生育の状況に変化が生じていないと考えられる。

さらに、陸域（大嶺崎周辺区域）ではまだ工事がほとんど進捗していないことから、大きな環境の変化はみられていない。

以上のことから、平成 26 年度末時点において、工事による影響と考えられる顕著な変化は確認されなかった。

よって、環境影響評価書に示した環境保全措置を実施することにより環境影響を低減できており、第 8 章に示した事後調査の結果により必要となった環境の保全のための措置で示したとおり、新たな措置を講じる必要はないと考えた。

ただし、調査項目においては、引き続き平成 27 年度も事後調査を実施し、本事業による環境変化、環境影響の把握に努めていくこととする。

9.2 平成 27 年度調査計画

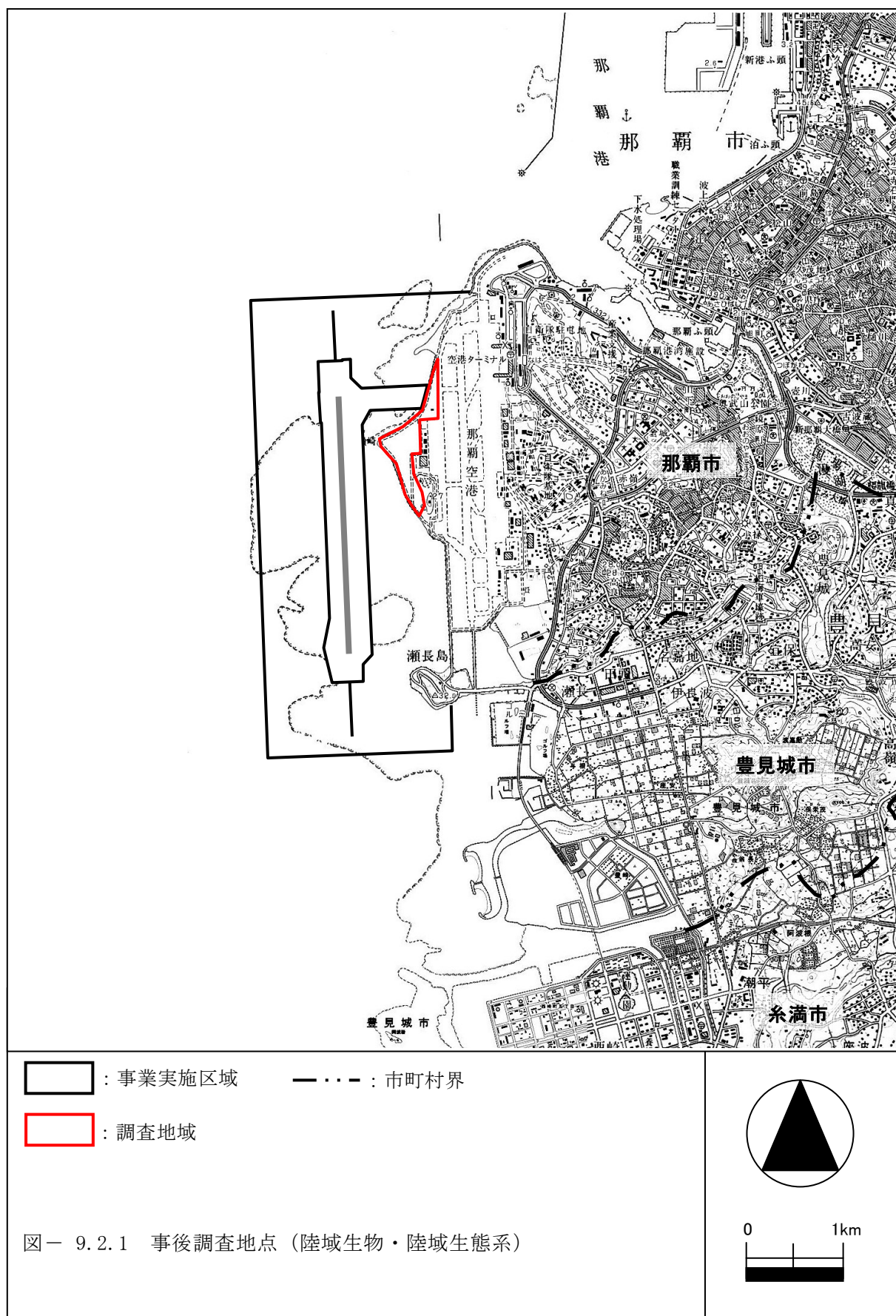
平成 27 年度における事後調査計画は、以下のとおり事後調査を行う予定である。平成 27 年度は、「工事の実施時」に該当する。

表－ 9.2.1 平成 27 年度調査計画

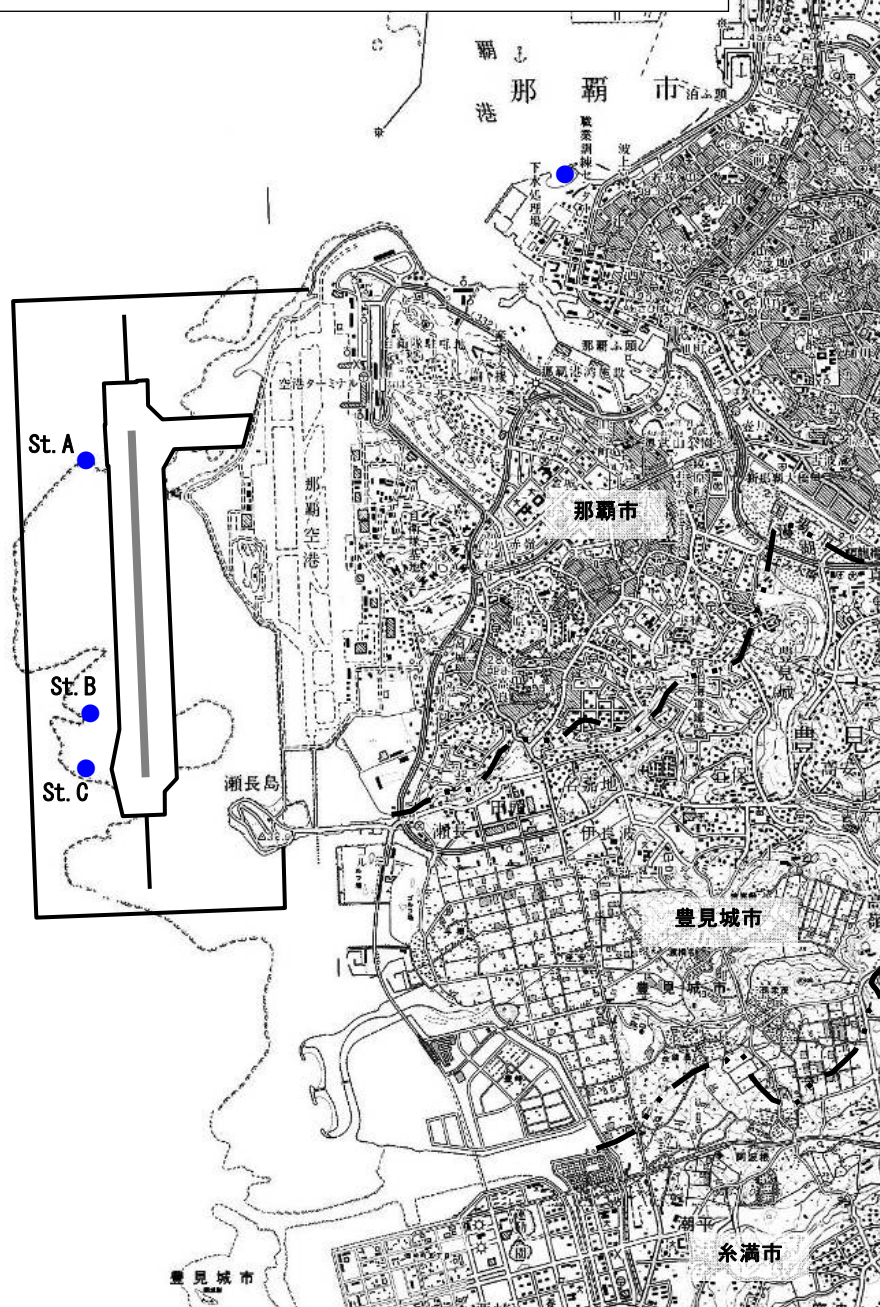
調査項目				調査時期	
				工事の実施時	存在及び供用時
陸域生物・ 陸域生態系	陸域改変区域に分布する重要な種			夏季・冬季	
	コアジサシの繁殖状況			コアジサシの繁殖時期(5～7月)に1回	
海域生物・ 海域生態系	移植生物	移植サンゴ		夏季・冬季(年2回)	
		移植クビレミドロ		4-6月及び1-3月に月1回	
	付着生物	サンゴ類、底生動物、その他生物等		－	夏季・冬季
	海域生物	植物プランクトン		四季	夏季・冬季
		動物プランクトン			
		魚卵・稚仔魚			
		魚類			
		底生動物(マクロベントス)			
		底生動物(メガロベントス)※			
		サンゴ類(定点調査)			
		サンゴ類(分布調査)			
		海草藻場(海藻草類)(定点調査)			
		クビレミドロ			
		生息・生育環境	水質		
底質	四季		夏季・冬季		
潮流	－		夏季・冬季		

注) 1. サンゴ類と海草藻場の調査時期は、台風通過後についても、台風の規模・経路等を勘案し、必要に応じて追加する。

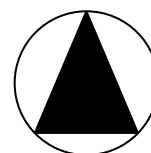
2. 底生動物(メガロベントス)の任意踏査法・定性採取法については、定量性がなく、モニタリン調査として経年的な比較が困難なことから、平成 26 年度調査で終了する。



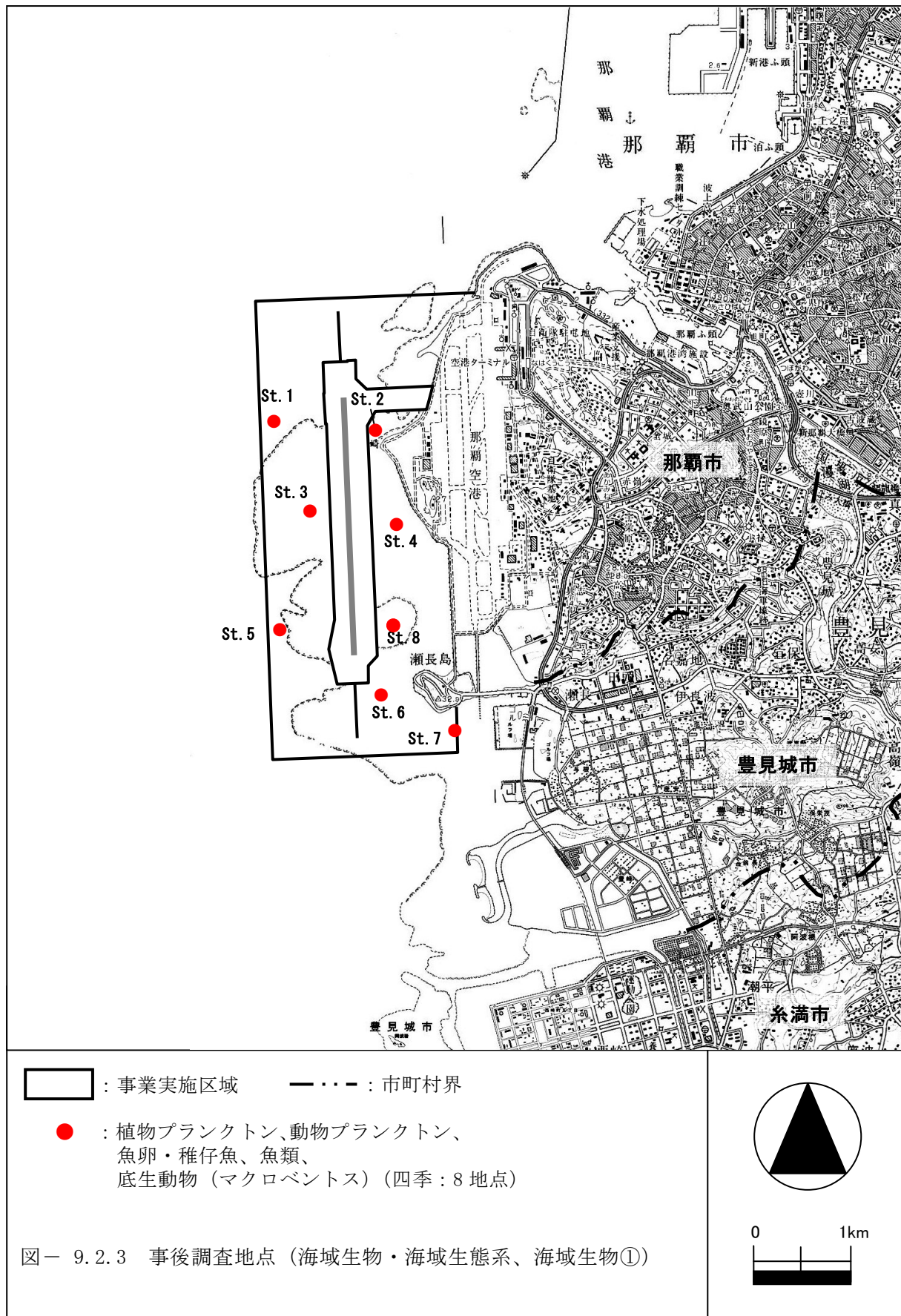
※重要種保護のためクビレミドロ移植地、及び移植候補地は表示しない。



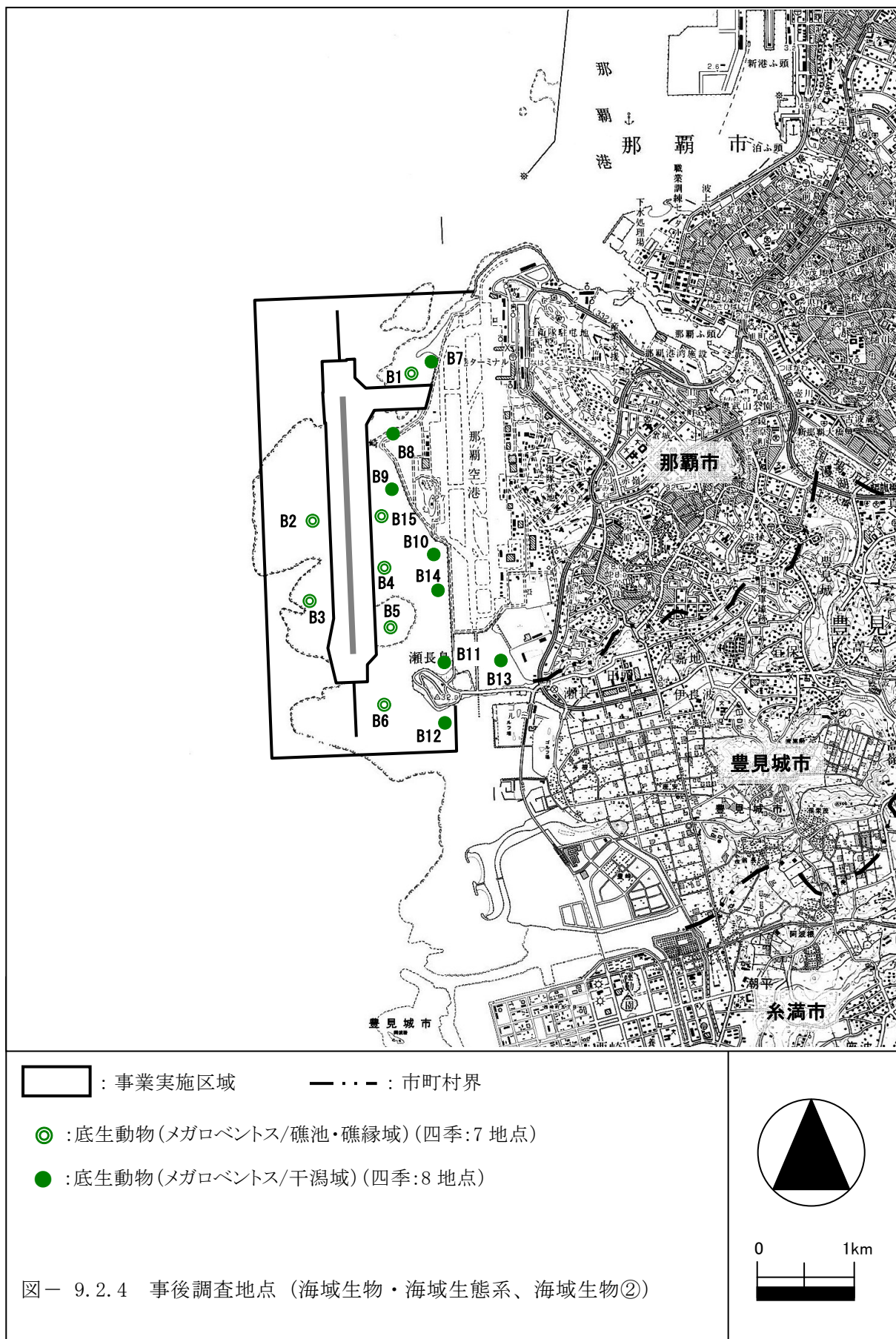
- : 事業実施区域
 - . - . - : 市町村界
- : サンゴ類移植地点
○ : クビレミドロ移植地
⋯ : クビレミドロ移植候補地



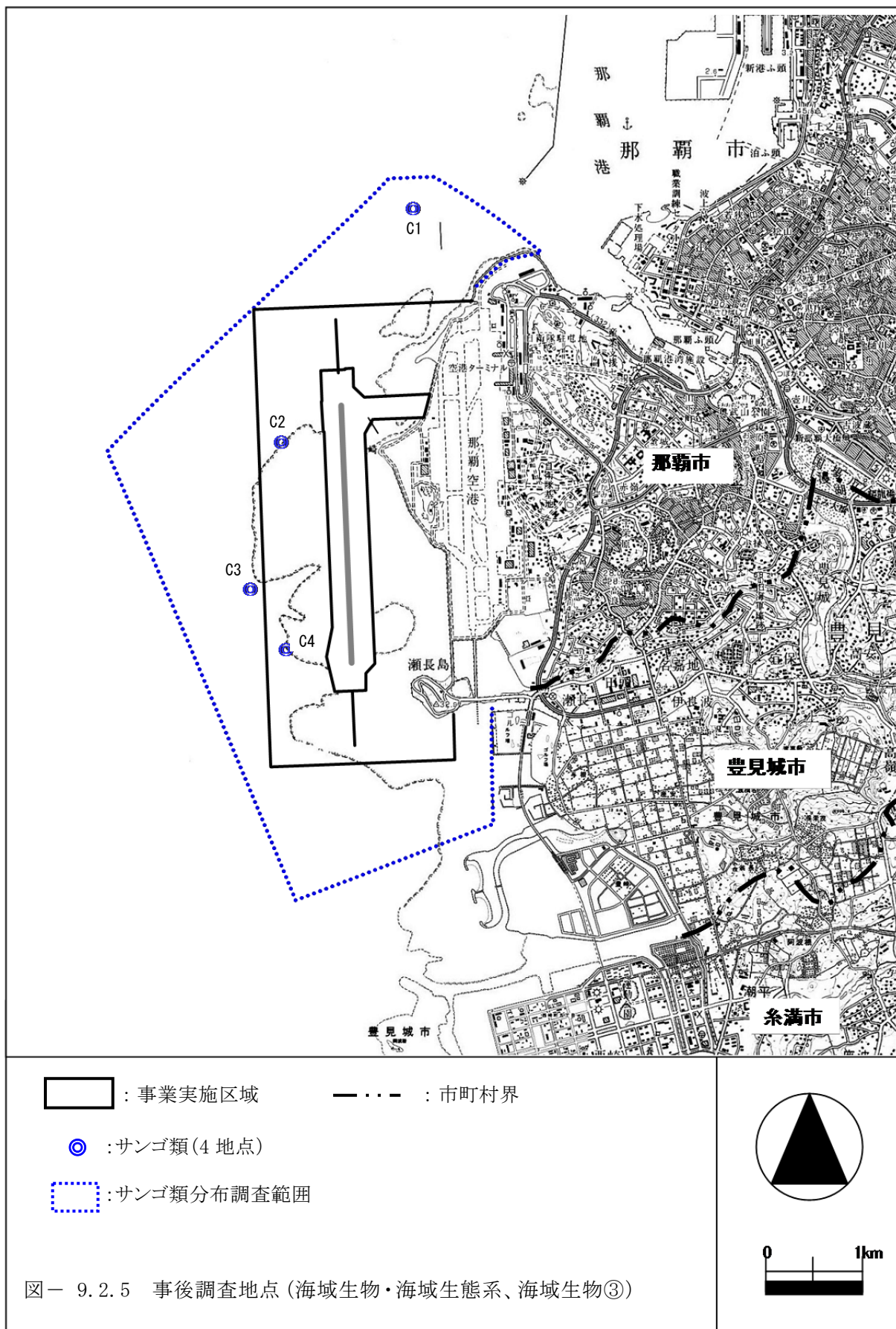
図－ 9.2.2 事後調査地点(海域生物・海域生態系、移植生物)



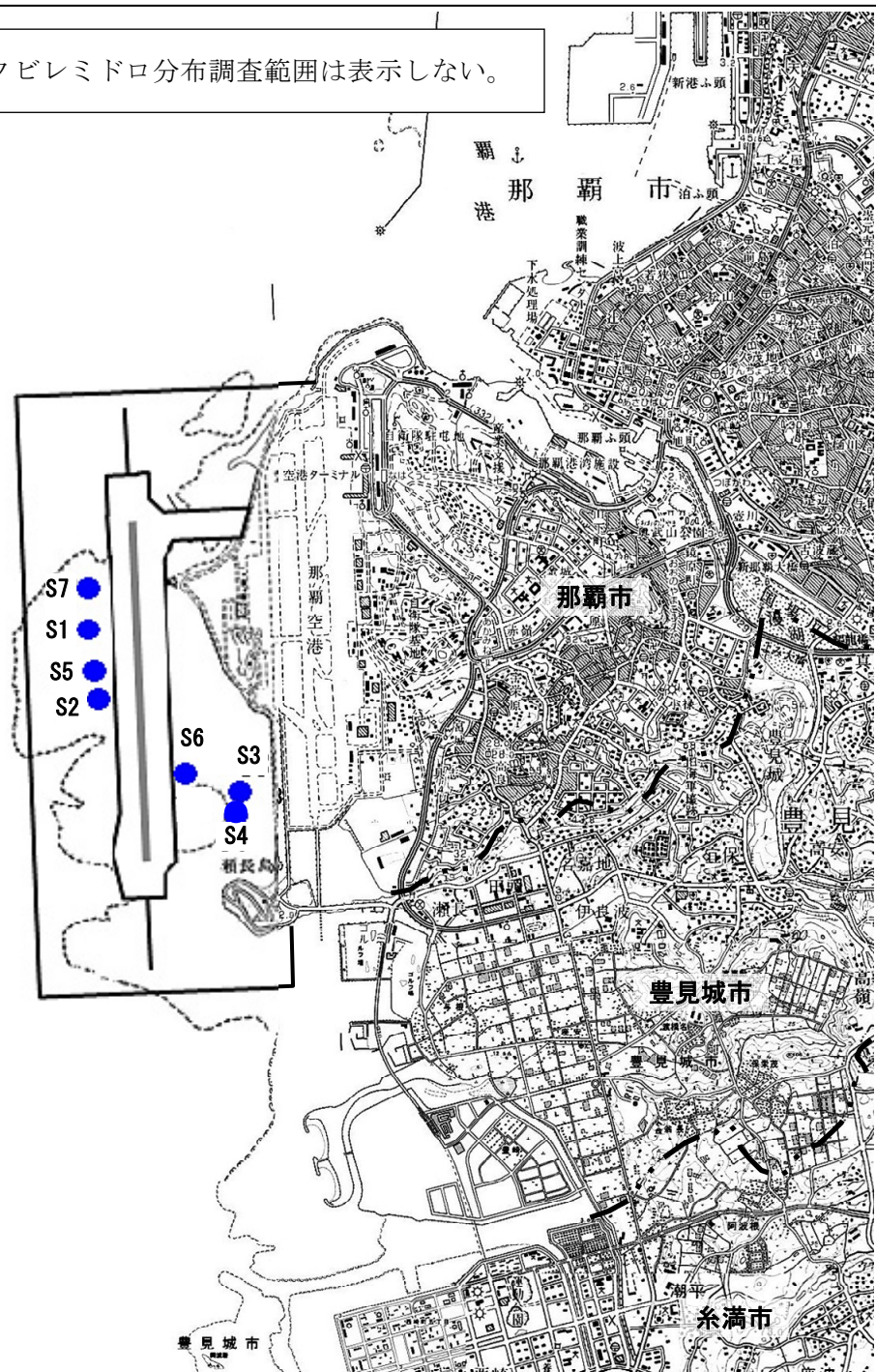
図－ 9.2.3 事後調査地点（海域生物・海域生態系、海域生物①）



図一 9.2.4 事後調査地点（海域生物・海域生態系、海域生物②）



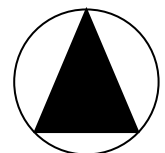
※重要種保護のためクビレミドロ分布調査範囲は表示しない。



— : 事業実施区域 - - - : 市町村界

● : 海草藻場(7地点)

--- : クビレミドロ分布調査範囲



0 1km



図ー 9.2.6 事後調査地点（海域生物・海域生態系、海域生物④）

